

# 福岡県大川市における生活支援体制整備事業 ～協議体とコーディネーター、市の動きから～

2018年1月26日（金）

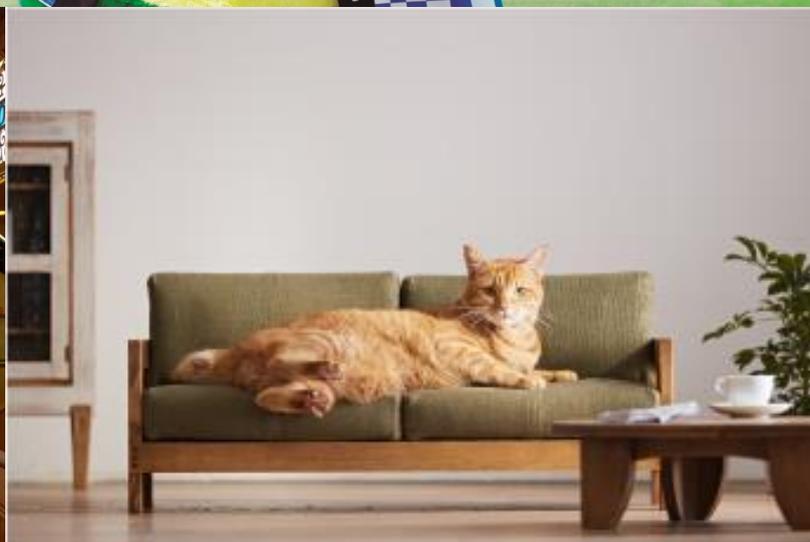
第4回九州厚生局地域包括ケア市町村セミナー

福岡県大川市健康課



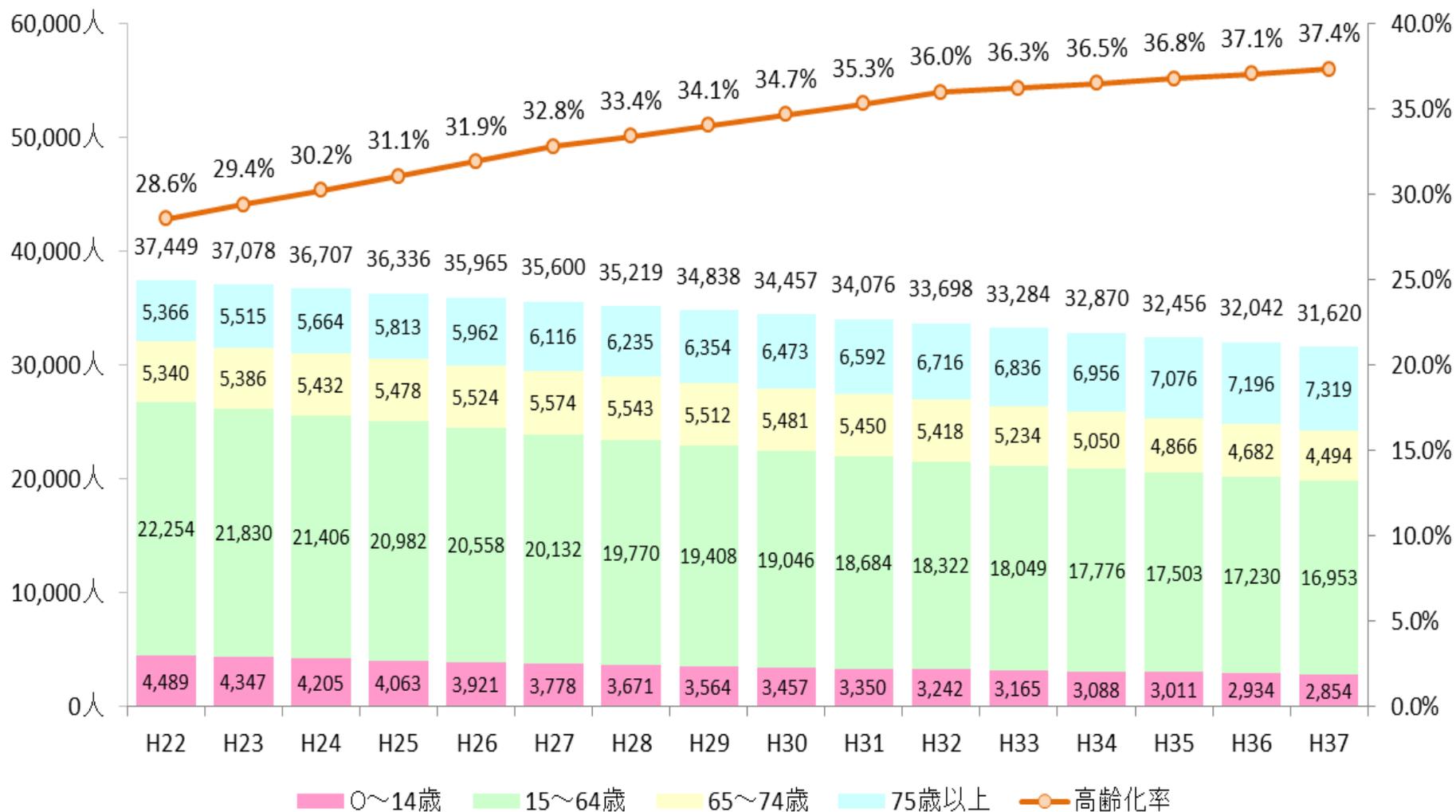
# 大川市の概要

- 人口 34,872人 うち65歳以上人口 11,814人
- 高齢化率 33.9% (H29.10.1)
- 面積 33.63km<sup>2</sup> ●日常生活圏域 6 圏域
- 地域包括支援センター 1 か所  
サブセンター 3 か所
- 鉄道なし。車がないととても不便。



# 大川市の現状

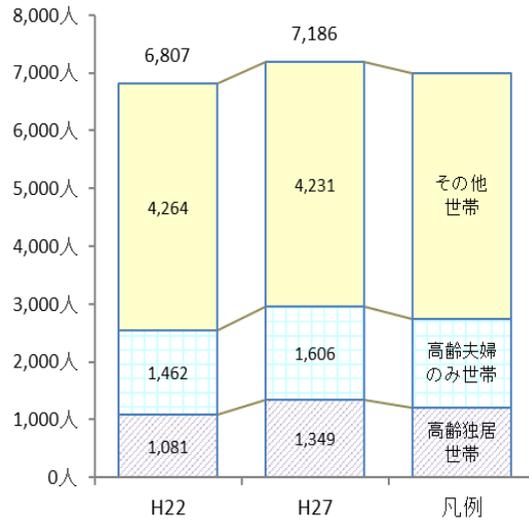
## 1 人口の推計



# 大川市の現状

## 2 高齢世帯の推移と就業状況

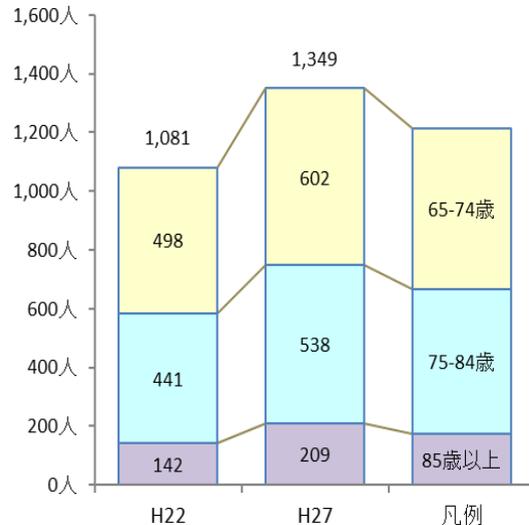
高齢者世帯の推移(大川市)



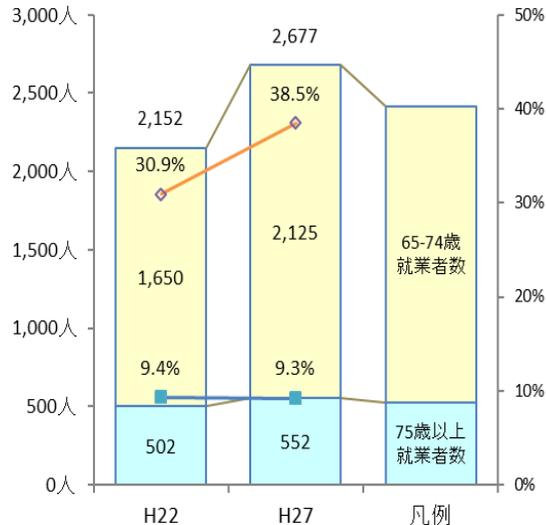
高齢者世帯割合の比較(H27)



高齢独居世帯の推移(大川市)

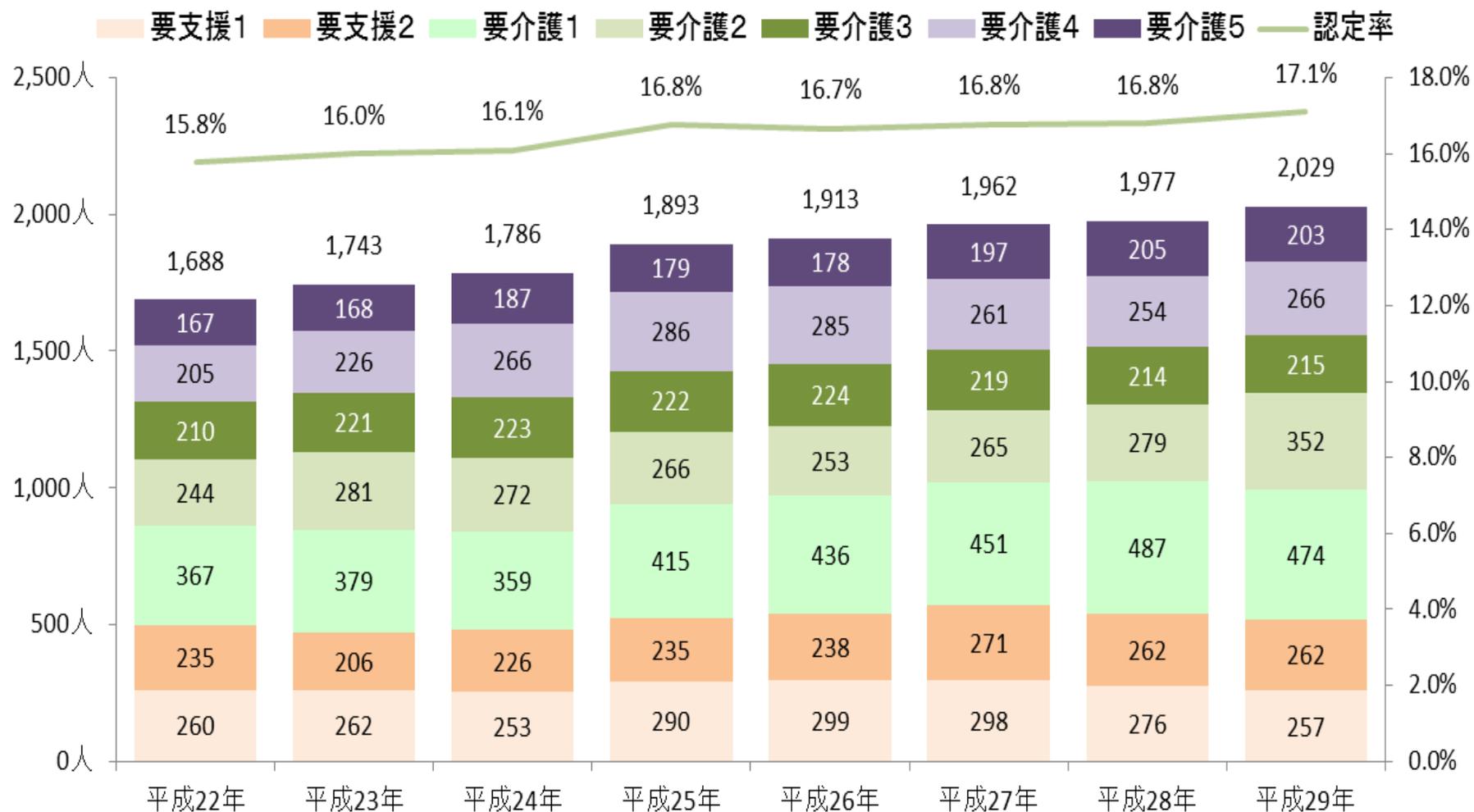


高齢者の就業状況(大川市)



# 大川市の現状

## 3 認定者数の推移



# 大川市の取組み 1

---

はじまりは認知症啓発の取組みから

●平成20年～認知症サポーター養成講座実施も、キャラバン・メイトの活動が活発とはいえず、サポーター数は平成25年時点で431人。→**啓発の推進**

●認知症の相談があっても資料が乏しいこと、認知症の人を支える社会資源の把握が不十分。→**認知症ケアパスの作成**

●認知症のことについて気軽に話せる場所がない→**認知症カフェ**

- ・H26.2月 大川市でキャラバン・メイト養成研修開催（1回目）
- ・H26年度から市内全小学校で認知症サポーター養成講座開催
- ・H26.5月 **認知症地域支援推進員配置 地区ごとの人口や社会資源の把握作業**
- ・H26.7月 認知症ケアパス作成検討委員会設置（11月まで全5回）
- ・H26.11月 あんしん声かけ訓練開催
- ・H27.2月 大川市でキャラバン・メイト養成研修開催（2回目）
- ・H27.3月 おおかわケアパス発行。認知症カフェ開催（月2回程度・3か所）
- ・H27年度から出前講座でケアパス周知。公民館を巡回し、もの忘れ健診開始。
- ・H27.5月 啓発映画上映会開催。実行委員会方式でチケット販売

# 大川市の取組み 2

平成27年度から総合事業への移行と生活支援体制整備事業をどうやるか係内で話し合い

● 県主催の研修会で講師をしていたさわやか福祉財団阿部さんに連絡

→ **勉強会の開催からはじめよう**

年月	協議体	sc(社協)	市
H27.8	全体で準備会 (キックオフ勉強会)	社協として参加	事務局：健康課 市長・副市長及び関係課職員が参加
H28.2	第1回市民フォーラム	社協として参加	事務局：健康課 市長・副市長及び関係課職員が参加
		H28年度から社協に業務委託するための協議・予算確保	
H28.8		人員を1名増やし、SC配置	
H28.12			コミセン、区長会で勉強会（準備会）の開催趣旨説明 SCと一緒に参加してほしい団体等を訪問し、趣旨説明実施
H29.1～8	第2層協議体準備会	案内状送付・参加呼びかけ	市報にチラシ折り込み 参加呼びかけ
H29.8			庁内連携体制づくりのための職員勉強会開催
H29.9	第2回市民フォーラム	司会	受付・発表者フォロー 市長及び関係課職員が参加
H29.11	第2層協議体ごとに話し合い 名前・運営体制・取組みなどについて	司会	SCのフォロー

# みんなが住みやすいまちについて語り合う会の内容

第1回	1. 市の高齢化の現状と今後必要となるしくみづくり 2. 消費者被害防止の啓発 3. 有償ボランティアや居場所の実例・助け合いゲーム
第2回	ワークショップ 「地図を使って地域を見直してみよう」
第3回	ワークショップ 「地域にあったらいいなと思うサービスや住民主体の助け合い活動について」
第4回	ワークショップ 「全体会での発表に向けて、前回出たアイデアをブラッシュアップ」

## 参加団体等

コミュニティ協議会、区長、民生委員、公民館長、女性ネットワーク、育成会、老人クラブ、ボランティア団体、医療機関、障がい事業所、介護事業所、生協、国際医療福祉大学、防災士、消防団、企業、個人など

- ・ H29.8月 全6圏域で、4回の準備会終了
- ・ H29.9月 全体会（第1層協議体準備会）として市民フォーラム開催

# 大川市の取組み3

---

H29.5月 社協に配置した1層コーディネーターが退職！

職員を募集するも応募なし。社協職員は他の業務で手一杯・・・

参加呼びかけの市報折込チラシ（裏面には前回の話し合いの内容を掲載し、前回参加していない人も参加しやすく）の作成や、参加してほしい団体の会合へ参加してPRなど、市が担って進めた。

H29.7月 第1層協議体の設置に向けて、並行して庁内の体制づくりが必要なため、企画課と打ち合わせ。  **職員向け勉強会をやる**

H29.8月 さわやか福祉財団阿部さん・竹下さんを講師に係長級職員勉強会を開催。対象は、1月からの「語り合う会」（第2層協議体準備会）で出てきた地域の課題や住民がこれからやりたいと考えている内容に関連する課の職員。事前・事後にアンケートを実施。

## 事後アンケートから

・今は行政だけではやっていけない、やはり地域と一緒に共同して行う必要がある。地域からはいろいろな意見は出ると思うので、役所も横の連携を十分にとる必要がある。

・それぞれの課が持っている課題を共有することで解決できなかったことも解決できることがあると感じました。

# 大川市の取組み 4

H29.9月 「みんなで支え合うまちづくりフォーラムvol.2」 開催

想定していた参加者は、20名×6地区プラス各種団体、市職員で170名くらいだろう・・・実際は240名の参加者！各地区からの報告に興味津々。



## 大川地区

テーマ：地域共生社会が実現できるように、安全で安心して出来るだけ支え合いながら、住み慣れた地域で健康に住み続ける

### 公民館活用

ゆうゆう会の充実・拡大

移動販売とコラボ

(ゆうゆう会当日に会場前に来てもらうなど)

### 生活支援バスについて

便数増、時間変更、昇降場所見直し、有料化など

買い物帰りに荷物（多い・重い）を運ぶ支援ボランティアがいたら助かる

### 多世代交流の場

- 地域の人同士だけでなく地域外の人とも交流できる場
- 誰でも好きな時に行って、好きな時間が過ごせる
- 音楽・カルチャー教室（先生は地域の人）
- 体験型のものづくり（木工・手芸・料理）
- 将棋やマーじゃん、簡単な運動、食堂、アルコールも

## 三又地区

### ゆうゆう会

- ・ 運営方法  
公民館と一緒に考えては？  
役員についての検討、運営補助金
- ・ 健康体操、野菜づくりなど  
取り入れてみたら
- ・ 参加呼びかけを未就園児や  
赤ちゃんのいる親世代にも
- ・ 男性の参加

### 公民館活用

- ・ 子ども食堂や多世代交流の場  
として開放
- ・ 週1回ラジオ体操や月2回程度  
お茶会など
- ・ 子育て世代のサークル増やす
- ・ 公民館に図書コーナー設ける
- ・ 夏休み中、宿題の勉強会
- ・ 市全体で公民館使用方法の  
調査を

### 三又地区の生活支援

- ・ タブレットを使った生活支援ニーズの集積
- ・ 御用聞き制度
- ・ 支援できる人としてほしい人のアンケート調査
- ・ 生活支援バスの充実・改善、それを補完する乗り合いタクシーの運行

# 木室地区

## 木室地区でできること

## 市全体で考えること

高齢者と子どもとの交流

- ・多世代交流の場、子育て中の親の交流も
- ・昔遊び教室(高齢者が子ども達に教える)
- ・夏祭りやお花見など季節の行事
- ・大学生・高校生の協力を得て寺子屋を開催(学習支援の場)
- ・プレーパーク ・集団合宿で利用
- ・学童に行っていない子どもたちの居場所に
- ・ファミサポの幼児・児童の預かり場として
- ・子ども食堂

- ・傷害保険・警備
- ・エアコンやトイレ整備
- ・光熱費助成
- ・防災拠点
- ・災害時の備蓄や避難場

朝市など(スーパーみたいな)

地域の事業所として

- ・施設ごとの協力(車を出す)
- ・認知症への理解
- ・介護・福祉サービス等の周知活動
- ・子どもとの交流
- ・事業所間で交流・勉強会

- ・認知症の人への理解
- ・介護人材の育成・確保、スキルアップ
- ・病院との連携

福祉サービスの相談窓口の周知、認知症高齢者サポート事業

え 住 民 同 士 の 支 合 い

- ・作った野菜の販売
- ・野菜づくりの指導
- ・防災教室、防災パトロール
- ・買い物支援

- ・図書館分館や集会室
- ・レクリエーションの指導
- ・空き家調査、市営住宅
- ・道路照明、防犯灯
- ・カラー舗道、橋かけ

「田口地区にこんな場所があったらいいな」

- 子ども食堂
- 小料理屋(カラオケ、お酒が楽しめる場所)
- 安くて気軽に利用できてゆっくりお茶が飲める
- 農業の人多いので雨の日などゆっくり集える
- 高齢者も子どもも集まれる



**コミュニティカフェ**

地域コミュニティのあり方

- 住民同士がお互い遠慮して活動ができないでいる
- 老人ホームなどに入るには早すぎる世代の方々は、何かしてあげたいと思いを抱いている



★田口地区の皆で、何か一つ一緒にできることを決めて取り組む

★団結力の向上が安心して住み続けるまちにつながるのではないだろうか

# 川口地区

## 川口地区でできること

## 市全体で考えること

移送

- ・地域の居場所に商店や移動販売などに  
来てもらう(できるだけ地域の店を使う)
- ・御用聞きボランティアドライバー
- ・町内で声掛け合って乗り合い
- ・バス停まで迎えに行く人づくり

- ・生活支援バスの停留所増やす
- ・介護タクシーを増やす
- ・電車(地下鉄)
- ・道路を広げる
- ・ドローンで配達するサービス

居場所

- ・公民館を活用
- ・野菜づくり ・趣味の会
- ・昔遊びを子どもに教える
- ・近所付き合いの強化
- ・子ども達の勉強の場、遊び場

- ・安全な公園
- ・施設に入らなくていいようにコミュニケーションの場の提供
- ・旧川口幼稚園活用

買い物

- ・重いものの配達
- ・週に数回乗り合いで買い物ツアー

- ・人材育成(買物支援してくれる)
- ・宅配サービスなどの情報提供
- ・生活支援バスのルート変更

・移動販売 ・スーパーがバスを回してくれる

日常の  
ちよつ  
とした  
お手伝  
い

- ・避難するときの声掛け、災害の片づけ
- ・照明の交換
- ・買い物代行 ・ちょっとしたおかずづくり
- ・お墓掃除(納骨堂はみんなで)
- ・仏壇のはたき掃除(磨きものは×)
- ・趣味を持つ、本人が自覚をもつ
- ・頼める間柄になる

- ・サロンまでの移動支援
- ・自動車免許持っている人少ないので50~60歳代の支援者を
- ・運転手への保険・補償

草とりはシルバー人材センター

# 大野島地区



# 大川市地域福祉計画 (平成27年3月策定)

## ●基本理念

本市の地域福祉の課題や方向性を踏まえ、大川市第5次長期総合計画の地域福祉分野の目標を勘案し、市民の誰もが住みなれた地域で、安心して、健康で、生きがいをもって暮らすことができるよう、みんなと共に支え合うまちづくりを進めるため、本市の目指す地域福祉の将来像を「みんなで支え合う共生のまち 大川」とします。

本市の目指す地域福祉の将来像

**みんなで支え合う共生のまち 大川**

## 大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (平成28年2月策定)

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する  
＝**住み続けたいと思う人を増やす**

【基本的方向性】

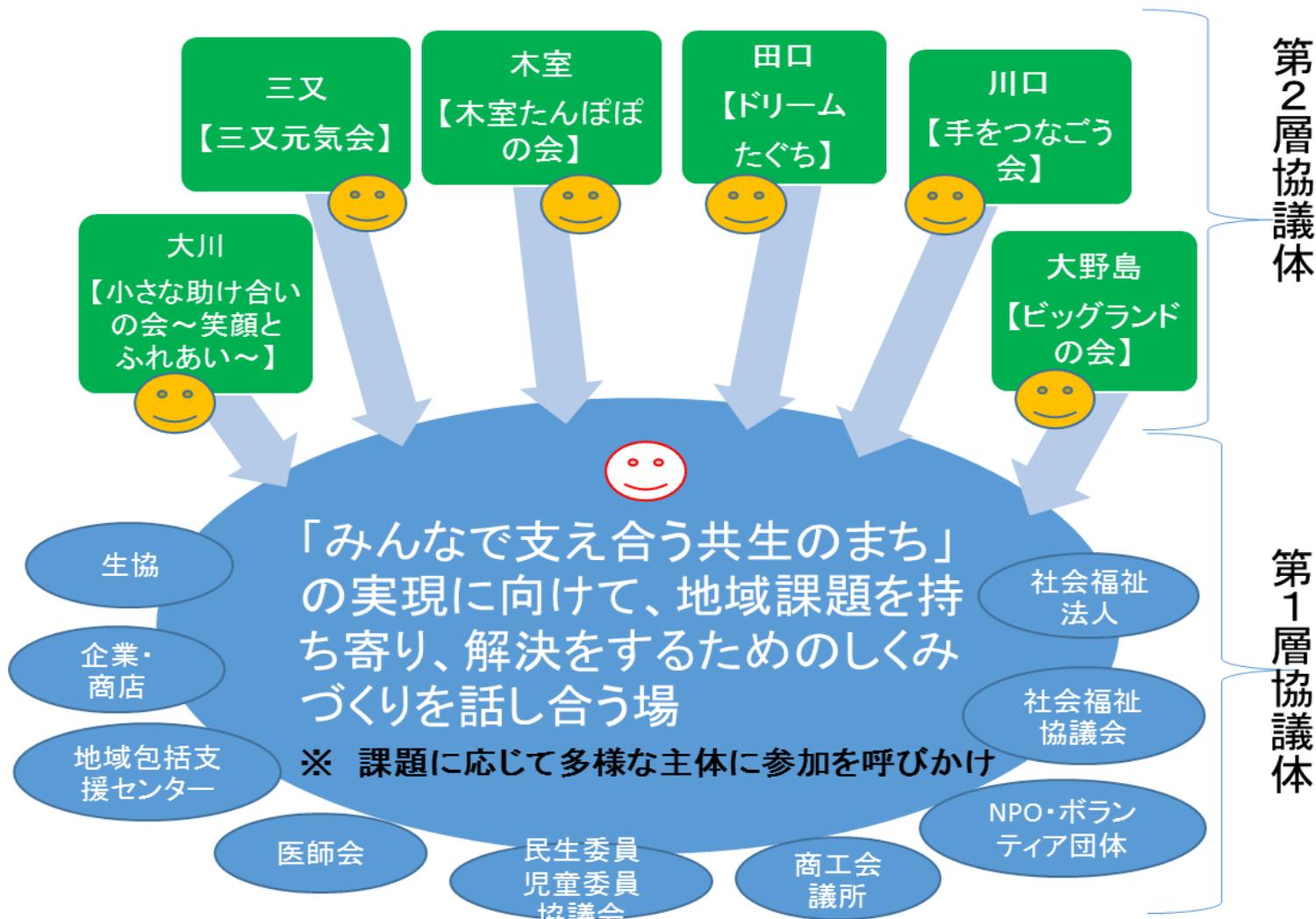
②安全・安心かつ健やかに暮らせるまちづくりの推進

**住んでよかったと思えるまちづくり・・・**

- ・ 住み慣れた地域で生きがいを持ち、生き生きと暮らせる環境づくりと、支援や介護が必要となったときでも支え合う仕組みがある
- ・ 災害が発生しても消防署と消防団の連携に加えて市民の自助、共助がある
- ・ 次世代の子どもたちのためにも、今を生きる私たちができることを実践し、住みよい環境を引き継ぐこと

# 大川市の協議体構成

- ・ H29.11月～第2層協議体として組織体制や今後の活動内容の話し合いスタート



# 大川市の協議体構成

---

【生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員：SC） 】  
各協議体に配置。第2層SCは第1層協議体に参加し第2層協議体での協議内容等を報告したり第1層協議体での検討結果を第2層協議体で報告したりするつなぎ役。第1層SCは協議体での検討結果を踏まえ、行政や各種団体等への働きかけやネットワークづくりを行う。

【第2層協議体】市内に6つあるコミュニティ単位で設置。子ども会やPTA、老人クラブ、町内会など多世代の住民や、地域にある医院、介護や障害の事業所、企業や商店、ボランティア団体、社会福祉法人など多様な主体が参加し、目指す地域像を実現していくために、地域に必要なことを話し合い、地域のつながりで解決を図るほか、その地域だけでは解決困難な課題はSCを通じて第1層協議体に働きかける。

【第1層協議体】第2層協議体の代表が参加するほか、課題に応じて多様な主体が参加し、第2層協議体で出てきた地域課題を解決するための体制づくりについて、様々な支援や方法を話し合う。市の政策として実施すべきものについては、市へ政策提案する。

## 協議体（参加者）とSC、市のつながりで買い物支援開始した事例

---

H29.9月 大川地区のサロン開催日（月2回）に地元の青果卸会社が買い物支援（青果の販売）開始！

地域性：付近にスーパーはあるものの、交通量の多い国道を横断して買い物に行くのは大変な高齢者も多い地域。日頃からの助け合いもある。

- ① サロン主催者が協議体に参加しており、居場所で買い物できたらいいなというニーズから、地元の青果卸会社に相談し、交渉成立！
- ② ただし、公民館の横が公園で少し駐車することになるため届出等ちょっと不安になりSCに相談。
- ③ SCから市へ相談。

担当部署：都市計画課都市計画係

係長は、8月の勉強会に参加していたため高齢者の生活支援という理解が得られ、駐車は問題なし（公民館に駐車しているとの認識でいく）

- ④ **現在月2回サロンで青果の買い物できるようになった。次は魚屋も！**

# 協議体に多様な主体を呼び込むことでサービス開発の予感

---

大野島地区（ビッグランドの会）

地域性：筑後川の中州にある地域。島の中にはコンビニが1つ。スーパーへ買い物に行くには勾配の大きな橋を渡らなければいけない。市内6地区の中で最も高齢化が進んでいるが、結束力は強い。

島で唯一のコンビニに参加呼びかけ・・・一度はフラれるも、29年11月に参加！

店長から参加者に、配達サービスについて紹介。地域と協力して買い物に困っている人たちへの配達をやりたいとの言葉に、参加者から「一人暮らしが多くなっているから店舗に置いている一人用のおかずは助かる」、「ゆうゆう会（サロン）においでよ。試食があったら、なおいい。」などの声があがった。

## 狙っている今後の展開

ビッグランドの会で買い物支援ボランティアを募り、研修会を開催

コンビニで品物を預かり、利用者宅へ配達  **安否確認と交流**

# 協議体に多様な主体を呼び込むことでサービス開発の予感

---

三又地区（三又元気会）

地域性：社会福祉法人が2つあり、高齢者・障がい者福祉事業所が充実。

福祉の里をめざしている。ただし、スーパーはなくコンビニ2件と直売所2か所しかなく、買い物に不便。市が運行している生活支援バス（無料）は団地の利用者が多くすぐ満員になる。

障がい者就労支援事業所の職員が参加。バスで買い物して帰ってきたときに、重たいものを家まで運ぶのが大変という声を聴き、「事業所で支援ができないか考えたい！」

## 狙っている今後の展開

ニーズを把握するためのアンケート調査を実施。

障がい者就労支援事業所との連携による買い物支援など。

# 協議体に多様な主体を呼び込むことでサービス開発の予感

---

木室地区（木室たんぽぽの会）

地域性：地域の中心に閉園した幼稚園があり、卒園児の保護者たちが「木室幼稚園をこよなく愛する会」を立ち上げ、園が荒れないように草刈りや掃除などのボランティアを実施している。地域住民もこの活動を知り、旧木室幼稚園を多世代で誰でも交流できる共生型の居場所にしたい！と盛り上がっている。

「こよなく愛する会」のほか、子育てボランティア団体、区長、民生委員、地域の高齢者・障がい者支援事業所などが参加。多世代交流の場、子ども食堂、プレーパーク、寺子屋、介護予防教室、認知症講話など様々な団体が協力して、年齢や障害などの垣根を越えた交流をするための拠点として、旧木室幼稚園を活用する手立てを話し合う。

市は、売却処分等を基本に検討を進める方針

さて、今後どうなるか・・・

# 地域包括ケアは地方創生

---

全国画一的な制度では、すでに進行中の少子高齢・人口減少社会に対応できないことを、まず職員が理解する

👉 **高齢者部門だけの話ではない。**

**今後20年を見すえた、生き残りをかけたまちづくり**

それを地域住民に知らせ、この先何が必要か、住民とともに考え、創り上げていく

自分たちの地域は自分たちでつくる、守るという意識をみんなで共有する  
そこから次の段階(サービス開発とマッチング)

👉 **まちづくりに関わる各種団体との連携**

**＝所管する部署の理解が不可欠。職員勉強会で仲間を増やす！**

現状を伝え、一緒に作業すると、理解し、考え、行動してくれる住民が必ずいる。



計算

するが

いかにエ面

割

多市から

1 個人 助成金

2 町内

3 寄附

勉強会の費用

講師はボランティア

(会員の中から)

向島地区

世話人

◎居場所

無料

で会場の

を提

供して

もうう

ような

所がほし

い

さしあ

たつて

は

公民館

やつ

ミセン

を利

用さ

せて

も

認知

症予

防の

勉強

会や

健康

体操

をす

する

お茶

やつ

ヒー

を

の

み

が

ば

ら

う

あ

い

く

過

ぎ

せ

る

居

場

所

を

も

ち

ず

た

い

い

組

織

ぶ

く

り

と

代

表

を

決

め

る

公

民

館

長

を

選

出

会

と

# 大川市の包括ケアシステムの姿

